

# 事業

水取

シイタケ栽培に取り組んでいるのは「しまねきのセンター」(同町波入)の社長で兄の豊島泰斗さん(25)、工場長の弟、優斗さん(25)。3棟のビニールハウス内では2万2500個のシイタケ菌床ブロックを栽培、社員5人と共に1日80〜90kgを収穫する。

シイタケは「神泉しいたけ」(128号、販売価格200〜230円)の商品名で、山陰西県約20店舗のストパーやディスカウントストアへ卸している。

2人は地元出身で、それぞれ関西地方の大学に進学した。古里に帰って働きたいという思いが強かった2人は大学卒業後、すぐにUターンした。家族が経営する農作物の生産・販売を行う会社で働いていたが、泰斗さんは「大根島は人口が減少している。島が活性化するには、新しいことをやらなければならない」と感じた。

そんな時、県内でシイタケを栽培する知人から「大

「シイタケ栽培」豊島優斗さん(手前)と泰斗さん

根島でシイタケをやってみたら」と勧められた。栽培経験はなかったが、県と市の補助金制度があり、知人の土地をすぐに借りることができるといった好条件が背中を押した。

出雲市美談町の菌床シイタケ栽培「イ農ベルみだみ」で3カ月間の研修を経て、2018年4月にきのこのセンターを設立。当初は技術面で苦労したが、大根島の

湧き水と潮風がシイタケの生育に合っており、試行錯誤を重ねて現在の規模まで事業を成長させた。

泰斗さんは「シイタケの収穫が徐々に安定してきた。今年一年は勝負の年だ」とし、優斗さんは「大根島の土に合う作物は多い。大根島産のいろいろな作物の可能性を広げて、いい島にしたい」と意気込んでいる。

## 松江 フードバンクしまね 手紙添え食料箱詰め



箱詰めした食料にメッセージを添えるボランティア

企業や個人から資金と食品の提供を受け、松江市内の困窮世帯に食料を届けるフードバンク事業に取り組み民間団体「フードバンクしまね あったか元気便」(松江市西津田3丁目)が

18日、今夏2回目となる箱詰め作業を同市内で実施した。

団体は年4回、無償で困窮世帯に食品を届けている。夏休み中は自宅での食事回数が増えることから、

7月21日に続いて実施した。今回の作業には109人のボランティアが参加。松江市内にある四つの小学校に通う子どもがいる134世帯分、約1・6トンの食料を箱詰めし、手書きメッセージも添えた。

作業には市民のほか、企業単位での参加もあり、第一生命保険島根支社(松江市朝日町)からは9人が参加した。同社松江中央営業オフィスの佐藤今日子さん(32)は「みんなで協力しながら楽しく箱詰めした。みなさんに届くのが楽しみ」と話した。

(片山皓平)

## 松江高専の 図書館一新

保健室併設の複合施設

松江工業高等専門学校(松江市西生馬町)の図書館改修工事が完了し、保健室や演習室と一体となった複合施設「学憩館」として生まれ変わった。写真。新型コロナウイルスの流行状況が落ち着けば、住民の利用も可能となる。

同校図書館は1973年

